

ドローン調査(9月14日)による新燃岳(霧島山)の活動状況 速報

2025年6月22日に開始した新燃岳の噴火について、機動的な調査観測・解析グループは、2025年9月13～15日にドローンを用いた火口周辺の調査を実施し、活動状況の把握を試みた。9月14日に撮像した画像から作成したオルソモザイク処理結果を図1、新燃岳火口を西南西方向から捉えた斜め画像を図2に示す。火口中央から東方約200 mの地点には直径約90 mの円形の火孔が形成されており、活発な噴気活動が見られる(図3)。この地点は2018年噴火以降に最も活発な噴気が確認されてきた部分と一致し、既存の熱水系が既存の割れ目系を利用して活動している可能性が推測される。これは噴出物の特徴とも整合的である。その西側および南側に隣接する地点からは南南西方向に割れ目火孔が延びており、特に南側の割れ目火孔では北北東－南南西方向と東北東－西北西方向の割れ目火孔が交差している。そのうち南側の東北東－西北西方向の割れ目火孔において、やや活発な噴気活動が確認された(図4)。さらに、火口北東部には北北東－南南西方向に延びる火孔列が存在し、その一部は火口外へと達している(図5、6)。この火孔列でも活発な噴気活動が観測された。その他にも、比較的緩やかな噴気活動が火口内の各所で確認された。

【使用機材】

ドローン : DJI Matrice350RTK

カメラ : DJI ZenmuseH30T

ズームカメラ : 3664×2748 画素 (静止画)

広角カメラ : 4032×3024 画素 (静止画)

赤外カメラ : 1280×1024 画素 (静止画)

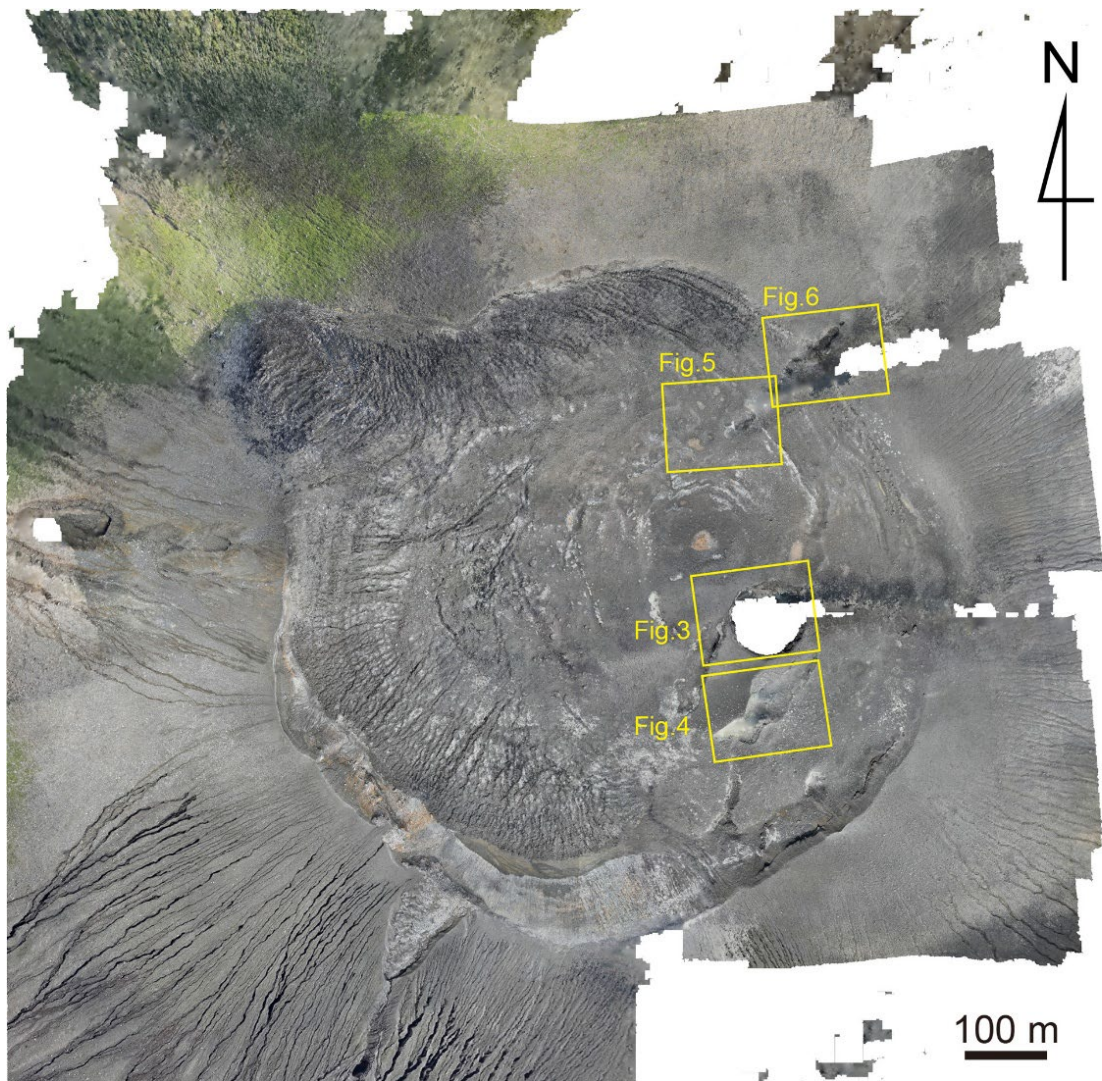


図 1. 2025 年 9 月 14 日に撮像した画像から作成したオルソモザイク画像。黄色線は図 3～7 の画像範囲を示す。

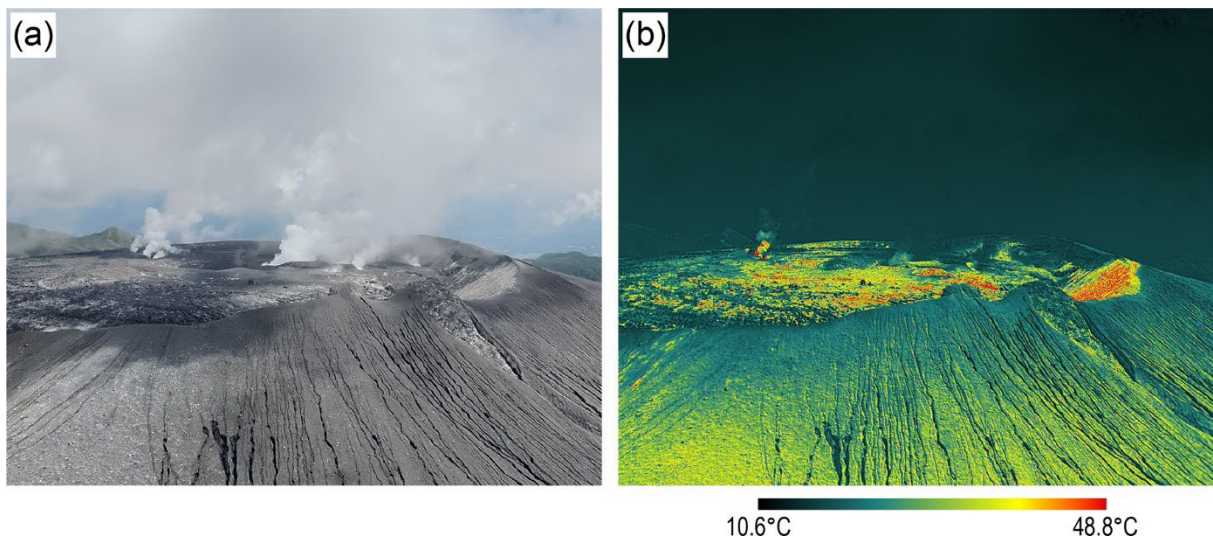


図 2. 西南西方向からみた新燃岳火口の斜め画像。(a)可視画像。(b)赤外画像。

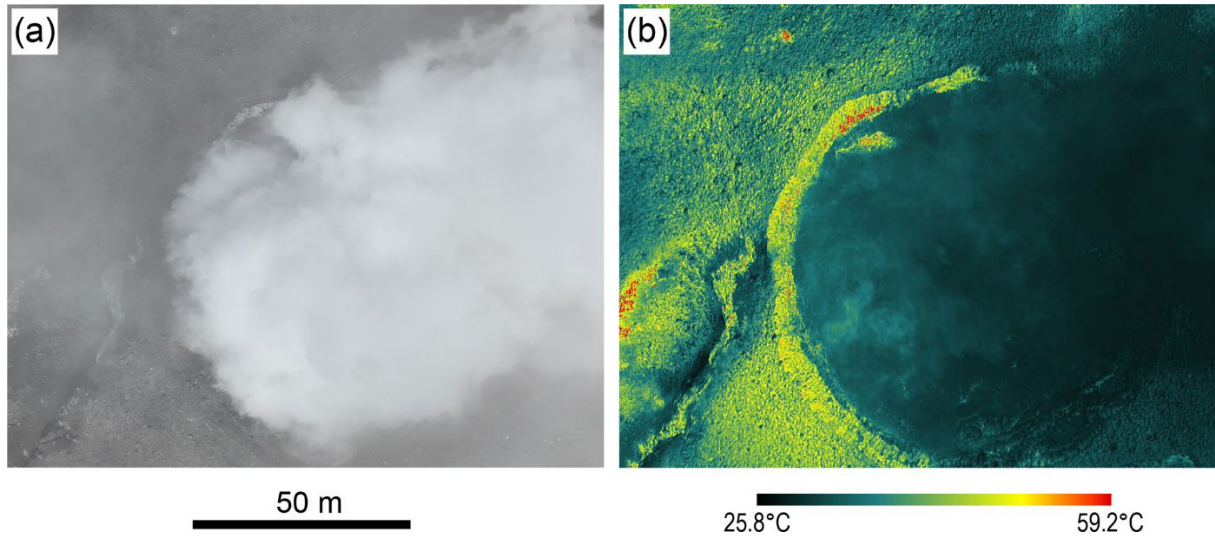


図 3. 火口中央から東方約 200 m の地点に位置する円形の火口周辺の(a)可視画像と(b)赤外画像。

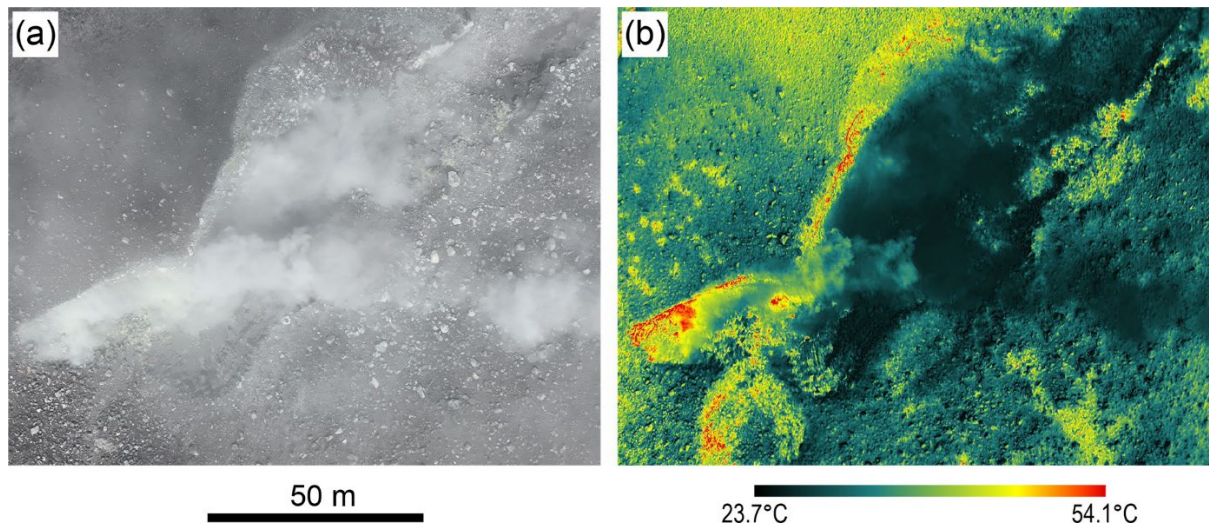


図 4. 火口南東部に位置する割れ目火口周辺の(a)可視画像と(b)赤外画像。

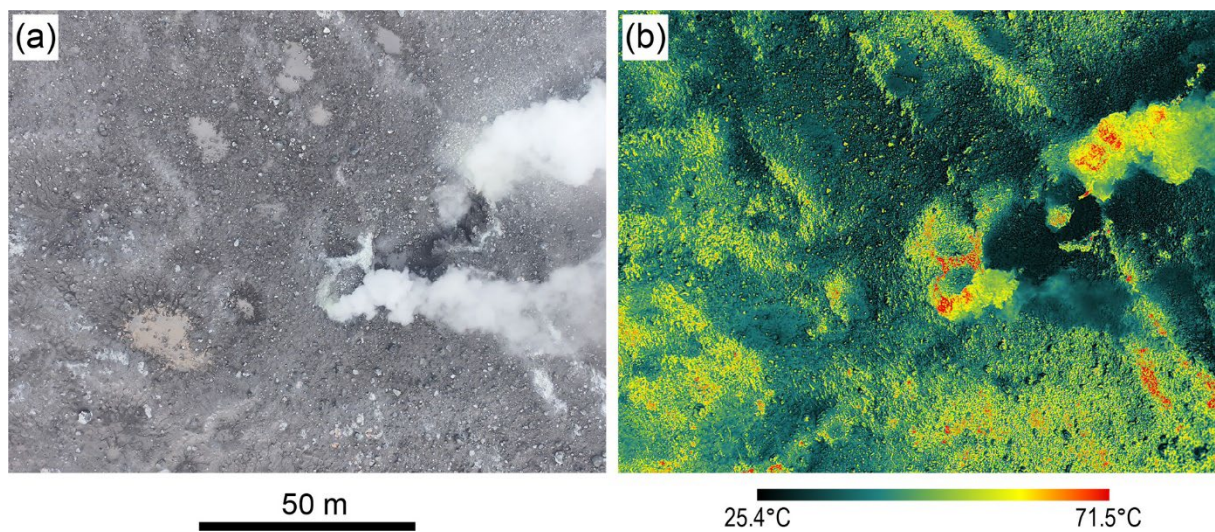


図 5. 火口北東部に位置する火孔列周辺の(a)可視画像と(b)赤外画像。

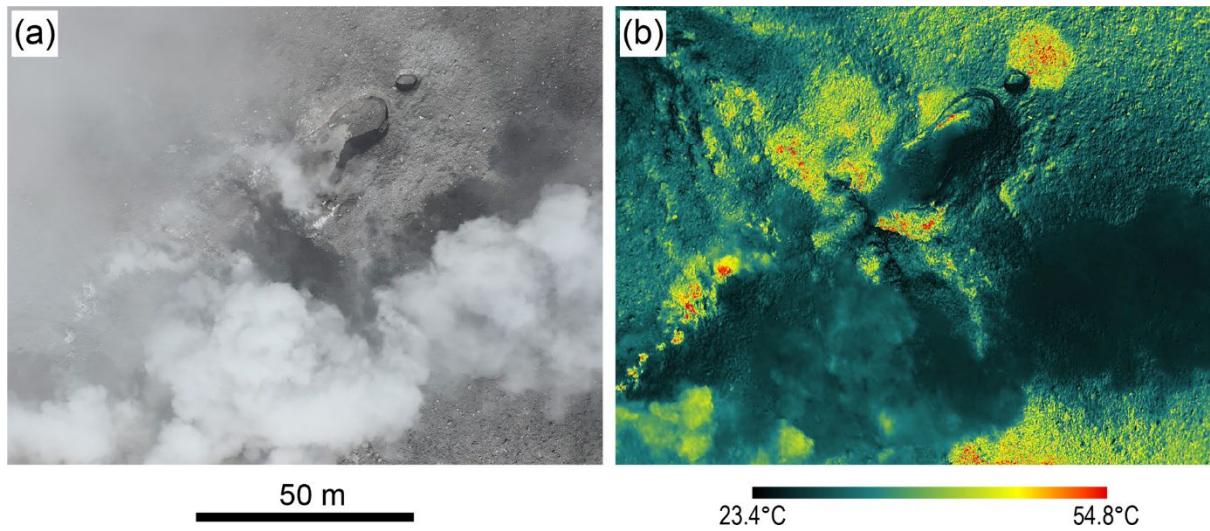


図 6. 火口北東部に位置する火孔列（火口外含む）周辺の(a)可視画像と(b)赤外画像。